

世界最高の蓄音機の音色を再現する 🎵 電気再生技術と JAZZ の試聴 🎵

2025年4月26日(土)/27日(日) 13時30分~15時30分

1925年、電気録音 SP レコードに対応した機械式蓄音機 Victor Victrola Credenza が誕生し、従来の機械式録音に比べて音質が著しく向上しました。また、真空管増幅器とスピーカーなどにより構成される電気式蓄音機も登場しましたが、非常に高価な上、スピーカーから出る再生音は Credenza に比べはるかに劣るものでした。

1948年に LP モノラル・レコード、そして1958年に LP ステレオ・レコードが誕生し、LP レコードを電気再生するレコードプレイヤーの技術が発展しましたが、大半のレコードプレイヤーでは SP レコードを再生するにはいろいろな問題がありました。

そこで、那須科学歴史館では、蓄音機 Credenza の音色を再現する電気再生システムの開発を行いました。

本セミナーでは、この電気再生システム技術を解説します。そして、1930年から1950年代初頭の JAZZ の試聴により、その音色を体感して頂くことを目的としています。

プログラム

1. 電気再生システムの要素技術の解説

2. 蓄音器 Credenza と電気再生システムによる比較試聴 [レコードの演奏者“曲名”レーベル(録音年)]

- ◇ Duke Ellington(デューク・エリントン) “Take “A” Train(A列車で行こう)” Victor (1941)
- ◇ Benny Goodman(ベニー・グッドマン) “Sing Sing Sing(シング シング シング)” Victor (1937)
- ◇ Billie Holiday(ビルリー・ホリデー) “Strange Fruit(奇妙な果実)” Commodore (1939)
- ◇ Billie Holiday(ビルリー・ホリデー) “Lover Man(ラバーマン)” Decca (1944)
- ◇ Charlie Parker(チャーリー・パーカー) “Bird’s Nest(鳥の巣)” Blue Star (1947)
- ◇ Charlie Parker(チャーリー・パーカー) “Cool Blues(クールブルース)” Blue Star (1947)
- ◇ Miles Davis(マイルス・デヴィス) “Israel(イスラエル)” Capitol (1949)
- ◇ Miles Davis(マイルス・デヴィス) “Boplicity(ホップリシティ)” Capitol (1949)
- ◇ Bud Powell(バッド・パウエル) “Celia(シリア)” Mercury (1949)
- ◇ Bud Powell(バッド・パウエル) “All God’s Chillun Got Rhythm(オールゴッドズチルンガットリズム)” Mercury (1949)
- ◇ Louis Armstrong(ルイ・アームストロング) “Stardust(スターダスト)” Decca (1951)
- ◇ Louis Armstrong(ルイ・アームストロング) “Kiss of Fire(火の接吻)” Decca (1952)

講師のプロフィール(本セミナーに関して)

大学のエレクトロニクス科学史の講義において、オーディオ技術の歴史の調査を行いました。

大学の公開講座では、「オーディオ技術の歴史」、「真空管アンプの製作講座」などを行いました。

那須科学歴史館において、蓄音機の誕生から1950年代までのオーディオの歴史に関する調査活動を行い、また、昨年は念願の「ハイエンド真空管アンプの製作講座」を行うことが出来ました。

会場：那須科学歴史館

栃木県那須塩原市戸田 669-36

(詳しくはホームページ <https://tzwrdr.co.jp/nsh> を参照)

主催：那須科学歴史館、後援：那須塩原市教育委員会

講師：田澤勇夫(那須科学歴史館 館長)

参加費：1,000円 資料代含む

定員：4/26, 4/27 各10名

参加申込：nsh_info@tzwrdr.co.jp 又は 0287-73-8740

お申込み時に参加ご希望日を指定して下さい。